

日常の作業で感じたヒヤリハット事例

○ アンケートに見る生の声

信越化学4工場におけるアンケートから「ヒヤリハット」に関する代表的なものとその改善策を下記にまとめました。

* 事例によっては更なる本質安全を目指した具体策を検討し、対策を講じてまいります。

ヒヤリハットの要因	ヒヤリハット提案の内容	改善策*
人	出荷門へ行き来するときトラックスケール前を通りますが、特にローリー車計量中にも拘わらず前を歩行する人がいます。危険だと思います。	なぜ車の前を通るのか、通る必要があるのか状況解析を行います。 また、ローリー車周辺のKY(危険予知)を行い、必要であればハード面の改善を加え、行動災害の防止を図ります。 また、既存のルールに関しては、なぜ決められているのか、守らない場合の潜在危険性を明確にした教育を行います。
	ローリー、コンテナのはしごでの昇降の際、手や足を滑らせ転落する危険がある。	始業前の危険予知活動(KY)を実行して、はしごの昇降時の安全の確保を図ります。
	夏など、白衣の袖を腕まくりしている人がいて腕に薬品や試料などがかからないか、又乾燥器内の出し入れ作業時に腕がすれないかと危なく感じる。	薬傷や火傷の危険を含んでいる化学工場で作業している事を再確認し、安全のルールに従った正しい作業服の着用を教育して行きます。
	台車の前進と後進のスイッチを間違えて台車にあたりそうになった。	指差呼称の実行により、間違いを防いでまいります。
	食堂やトイレ付近でよく見かけるが、車のエンジンをかけっぱなしで食事や用を足している人がいる。エンジンのかけっぱなしによる他社での火災の事例もあるので、危ないのではないか。	出入業者を含め、場内では停車中はエンジン停止を徹底させます。
	大きな事故災害となる作業は行っていないが、ちょっとした非定常作業でカッターを使用することもある。その際に危険とを感じる時もあるので、面倒でもケブラー手袋を使用する様にします。	作業前KY、作業指示KYを通じて、保護具の正しい着用を確実にします。
	メガネの上に保護メガネがしずらいため、ついするのを忘れる。	メガネの人には眼鏡用の保護メガネとして、ゴーグルを支給し、着用してもらいます。
	早く作業を済ませようと素材を運ぶ時、無理に多く箱を持ったり、積んだり持ったまま歩いたりした時、一時とは言え、落としそうになったり足がもつれたりした。	あわてたり、早く作業をすませないように、安全職場会で徹底を図ります。

ヒヤリハットの要因	ヒヤリハット提案の内容	改善策*
人	スタッカーより製品を引き出しパレット上に移す際の底の方に空箱を置いていることがあります。重量物であるためある程度力を入れ、物を持ち上げるため、空箱が混じると転びそうになる。	思い込みで作業するのではなく、空荷と実入り荷を区別できるように置き場所を定め表示を明確にし、勘違いを防ぎます。
	高所作業での落下防止ベルトの着用をした方がよいのでは思えることがあった。	高所作業は法律で決められています。保護具の正しい使用を教育します。
人の行動	導管に不凍液を充填する作業は、はしごを用いた作業となるため転落する恐れがある。	はしごを使用しない作業となるように、作業位置を変更します。
	階段の踊り場で、死角が多いので人と衝突する危険性が高い。	ミラーを取り付けて、死角をなくしました。
	反応器の蓋の上に置いていたゴム手袋を手にはめたら、熱くなっているヒヤリとした。	手袋の仮置場を検討します。
	現場パトロールのときに、排水溝へ出していた蒸気で足元が良く見えずに、排水溝へ落ちそうになった。	排水溝に蓋をしました。
	工場の階段デッキの手すりは規格通り施工されているが、視覚的に低く感じるため怖さを感じる。	手すりの高さを上げます。
	油汚れを掃除していた時に、部屋の入り口前にある階段を踏み外しそうになった。	滑り防止床にしました。油汚れの原因の特定と、汚れ防止対策も検討します。
	階段の昇降時に遠近両用眼鏡による視野の変化で距離感が掴めず、階段を踏み外しそうになった。	階段の昇降時は、必ず手すりを利用することを徹底させます。
	タンクローリーへ製品を移す際に、地面上を這わせるアース線が空中あったため、首や胸に引っかかりそうになった。	アース線が目立つように蛍光色を付けることを検討をします。
	掃除時に、体の一部が計器盤にある非常ボタンに触れ、押しそうになった。	不用意に非常停止ボタンが押されない様にカバーを取り付けました。
	管の継ぎ目のボルトを緩めたところ、滞留液が継ぎ目から勢いよく出てきた。	非定常作業時に定められている、作業前危険予知の実施、配管図と指図書の準備をしてから作業を開始することを徹底させます。

ヒヤリハットの要因	ヒヤリハット提案の内容	改善策*
人の行動	<p>暴風の日の設備点検時に、飛ばされそうになった記録用紙を手で押さえた際に、濡れていた床に足を滑らせて転倒しそうになった。</p> <p>救急蘇生法は講習を受けているが、遭遇時に正しく行えるか気がかり。</p> <p>作業現場一階の巡視時に、二階の解体工事中的場所からボルトが落ちてきてヒヤリとした。</p> <p>フォークリフトで荷を運搬走行中に、脇から人が出てきてヒヤリとした。</p> <p>タンクのはしごの近くに別のタンクの銘板があるので、昇降時に銘板にぶつかる危険性が高い。</p> <p>薬品を運搬中に、部屋入り口の段差で躓いて、バランスを崩してヒヤリとした。</p> <p>原料の投入具合を確認するため脚立に昇った時に、足を踏み外して落下しそうになった。</p> <p>プラスチック製空ボトルを廃棄処分するためにカッターで切断しようとした時、刃が滑って危険を感じた。</p> <p>配管中の仕切板を外すとき、足場から転落しそうになった。</p> <p>2機の廃水ポンプの内、1機の清掃をしていた時、残りの一機が運転状態になり、廃水が周辺に飛散した(清掃する1機だけ、手動運転に切り替えた)。</p> <p>コンテナをフォークリフトで移動中、フォークの爪が奥まで入っていなかったため、コンテナが落下しそうになった。</p> <p>プロセスケーキ(粉末状の製造工程中間品)搬送中、風で粉体が舞い上がり眼に入りそうになった。</p> <p>コンテナを小型フォークリフトで移動中、通路の台車との間に挟まれそうになった。</p> <p>高所作業車で作業中、下にいた別の作業員が作業車を移動しようとした。</p>	<p>設備の通路に滑り止めテープを貼って、滑り防止対策をしました。</p> <p>救急蘇生法の手順表を作成し、掲示することで、必要な時に適切に対応できる様にしました。</p> <p>元請け会社と工事業者へ作業管理を徹底させる様に申し入をしました。</p> <p>荷を運搬する時は周囲を確認しながら徐行するとともに、フォークリフトの通路に「立入禁止」の表示を貼りました。</p> <p>ガードを取り付けました。</p> <p>鉄板を敷いて出入り口段差を解消しました。</p> <p>移動式の手摺り付踏み台を設置しました。</p> <p>プラスチック製空ボトルの廃棄処分時の切断は鉄製ノコギリを用いる様にします。</p> <p>移動式の作業用専用足場を設置します。</p> <p>作業前にKY(危険予知)を実施し、切替を確認いたします。非定常作業時は、作業指示KY・作業前KYを徹底し、安全確認を行います。</p> <p>爪の位置を確認して作業をいたします。フォークリフト運転前の基本動作の徹底を図ります。</p> <p>保護眼鏡、常時着用の徹底を図ります。</p> <p>台車を定位置に置くように徹底を図ります。通路に不要なものを置かない様指導します。</p> <p>応急的には、操作ボックスに操作禁止の表示をします。恒久的措置として、インターロックを取付け、2カ所で作業できないようにします。</p>

	ヒヤリハットの要因	ヒヤリハット提案の内容	改善策*
New	設備	冷却水量点検作業は、5kgの装置カバーを持ち上げなければならないので、ギックリ腰になったり指を挟まれる可能性がある。	装置カバーを持ち上げる作業を無くすために、覗き穴の加工をします。
New		台車を移動させたところ、まっすぐ進まず壁にぶつかりそうになった。車輪の軸部分が少し曲がっていた。	車輪の回転軸受け部品を交換しました。
New		ステンレス製のバットの淵が鋭利のため、手を切創する危険性がある。	淵の鋭利な部分を丸めました。
New		作業着に付着した粉を落とすために、ブロー用のエアを出したところ、ホースが暴れて顔にぶつかりそうになった。	エアガンを設置して、ホースの先端を握り易くするとともに暴れない様にしました。
		点検で配管を外しやすくするために工事をした。しかし配管の支えが取り付けられていないので、不安定にならないか気がかり。	配管の支えを取り付けました。
		モルタルが塗られている箇所は、雪や雨で滑りやすくなるので、滑って転倒しないか気がかり。	砂を混ぜたモルタルを塗布して、滑りにくくしました。
		計器表示画面で、調整弁の開度が分かりにくい箇所があるため、弁の開閉状態を間違える危険がある。	調整弁の開度の表示を分かりやすい方法に変更します。また弁の構造や制御方法についての教育を引き続き実施します。
		操作レバーに、誤操作防止用の金属製保護カバーが付いているが、保護カバーの端部分が剥き出しのため引っ掛かってヒヤリとした。	保護カバーをシートで覆い、さらにその上に蛍光の安全テープを貼りました。
		機器(3本ロール)の洗浄作業で、安全カバーの取り付け方向によっては安全装置が動作しないことが分かり、危険と感じた。	安全カバーの構造を変更して、取り付け方向に関係なく安全装置が必ず作動するようにしました。
		災害発生時には黄色-黒色ロープ(通称「トラロープ」)で通行制限を行うが、夜間はロープの視認性が悪い。	視認性を向上させるために、赤色誘導灯を導入しました。
		古い建屋には工場基準よりも高さの低い手すりがあるので、転落の危険がある。	古い基準で作られた手すりは、工場基準の高さに直しました。
		機器の「STOP」ボタンを間違えて押ししまいそう。	誤操作を防止するために、ボタンにカバーを取り付けました。
		通路を横断した自動巻取り機能付きのアース線が作業中に外れて、アース線先端の金具が顔に当たりそうになった。	アース線が通路を横断しない様に、アース線の取付位置を変更します。

ヒヤリハットの要因	ヒヤリハット提案の内容	改善策*
設備	切断機の冷却水の急な不足に気付いたので、直ちに機器を停止し、切断機が壊れるのを防いだ。	冷却水が不足したら、自動的に停止するように安全装置をつけました。
	機器運転前点検中に、機器のカバーの角に太ももが接触してヒヤリとした。	機器のカバーの突起部のとがりを無くしました。
	スチームトラップ吹き出し方向がコンクリート壁に向いているため、コンクリートの損傷が見られる。	吹き出し口の方向を変えとともに、損傷された箇所をモルタル補修しました。
	工場内をヘルメットを着用して歩いていたところ、地上高約1.8mにある配管の支持枠に頭をぶつけた。	配管の支持枠にトラテープを貼りました。また、目線で確認できる高さに「頭上注意」の表示します。
	製造設備のタンク周りの段差に表示等が無く、夜間などにつまずく可能性がある。	段差が分かる様に塗装しました。
	配管中の水を抜く際に、残圧で配管先に接続したホースが暴れて顔に当たりそうになった。	配管を排水溝まで伸ばして、ホースの使用を無くします。
	通路の扉を開けた時に、通路と部屋の気圧差で扉が急に閉まって体や指が挟まれそうになった。	扉から引き戸に変更しました。
	機械の高さを調整するねじが、機械の固定板の上に必要以上に飛び出ているので、作業ズボンの裾に引っ掛かる危険がある。	ねじの不要な部分を切り取りました。さらに袋ナットを取り付け、ねじの表面を滑らかにして引っ掛かり難くしました。
	キーボックスが部屋の壁に立て掛けられているだけなので、地震や何かの拍子に倒れてきて怪我をしないか気がかり。	キーボックスを壁に固定しました。
	ポンプの回転軸の開口部分に安全カバーが取り付けられていない。運転時に指を巻き込まれる可能性があり気がかり。	ポンプの回転軸の開口部分に安全カバーを取り付けました。
	ポンペ庫に温度計がない。気温が分からないのが気がかり。	温度計を設置して、ポンペ庫内の温度が分かるようにしました。
	機器を点検する時に歩く高架橋に雪が積もって橋の床が見えにくくなり、足を踏み外して転落する危険がある。	橋に安全柵を設置して、転落防止を図りました。
	マンホールのふたが大型車の往来で僅かだが反り返っているため、フォークリフトや歩行者がつまずいたり引っ掛けてしまう危険がある。	ふたの交換とふた枠のコンクリート補強を施して、ふたの反りを無くすとともに、ふたが反らない様にしました。

ヒヤリハットの要因	ヒヤリハット提案の内容	改善策*
設備	タンクの水抜き作業終了後、移動時に段差につまずき転倒しそうになる。	人による水抜き作業を廃止しました。
	槽の中を確認する電灯が移動式のため、足元にある固定されていない電線で転倒等の危険がある。	固定式のLED電灯を設置して、固定されていない電線をなくしました。
	液体の可燃物を小さな容器に移す際に、静電気などで火が付かない様に流す窒素の量が判らない。	窒素の流量計を設置して、窒素の量が判る様にしました。
	容器を暖める熱水が流れる管を作業の度に脱着しているため、熱傷が気がかかり。	脱着の必要ない管に変更しました。
	屋外建物のコンクリートのひび割れ箇所へ雨水が浸入して、柱を固定するボルトが腐食する危険がある。	腐食した柱固定用のボルトは交換し、ひび割れ箇所のコンクリートは全面直して、雨水の侵入を防止しました。
	フォークリフトでの荷揚げで、頭上の荷置場は運転手から見えずらく、置く位置は運転手の勘に頼っていて危険を感じる。	リフト運転席から荷置場が見える様にミラーを設置しました。
	機器の増設で警報の聞き取りにくい場所ができて、緊急時に対応が遅れないか気がかりだ。	警報器を増やして聞き取りにくい場所を無くしました。
	コンベアー駆動チェーンの死角部分に保護カバーが無いので、手が巻き込まれないか気がかりだ。	保護カバーを設置して、巻き込まれを防止しました。
	水銀灯を固定するUバンドが腐食しており、地震等で水銀灯が落下する危険がある。	固定用のUバンドを新品に交換しました。
	排ガス処理設備の3階に設置してある垂直はしごは、誤って墜落すると1階まで落下してしまう。	1階まで転落しない様に、はしごの取り付け位置を変更しました。また、はしごに背もたれを設けました。
	通路上に弁や配管が通っており、つまずいて転倒する危険と、配管等を破損する二次災害の危険がある。	カバーを設置し、かつ、通行しないようにしました。
	タンク充填時に用いる転落防止安全柵の地上高が、高さ制限表示(4.5m)より低く、通行車両が接触する危険がある。	高さ制限の表示を4.0mに修正し、運転手へ注意喚起しました。
	処理設備の手動弁用開閉表示札の表示色が工場規則の表示色と逆のため、勘違いで弁を誤操作してしまう可能性がある。	工場規則の表示色の開閉札に変更します。

ヒヤリハットの要因	ヒヤリハット提案の内容	改善策*
設備	タンクから容器へ原料を受入れる時に、着火防止のために容器内に流す窒素は容器の耐圧を超えないように大気放出しているため、溶剤中毒や酸欠が懸念される。	タンクと容器の圧力を均一にする配管を設置して、窒素の大気放出をなくしました。
	河川取水ゲート制御盤の操作時、足場が狭く、操作の反動で河川に転落する危険がある。	安全柵を設置しました。設置工事終了まではテープで転落防止処置を行い、さらに安全帯を使用することにします。
	建屋、二階からの出口の床板が腐食していて穴が開きそう。	直ちに鉄板を敷き、「足元注意」の表示をしました。その後、腐食箇所を更新しました。
	階段を上がりきった所の天井に火災報知器の検出器があり、人が接触して吹鳴する危険がある。	直ちに接触危険の旨の表示を行い、その後、火災報知器を移設しました。
	除塵機のゴミ受けカゴ掃除時に、軸受けが露出しており、間欠運転時に巻き込まれる危険がある。	直ちに注意表示を行い、その後、安全カバーを設置しました。
	消火栓凍結防止用に通水した水が路上に排出されて路面が凍結し、夜間屋外点検時に滑って転倒しそうになった。	ホースを取り付け、排水が排水溝に入るようにしました。
	自動倉庫の搬送用機器の点検に用いる梯子裏側に柵が無いので、挟まれ怪我をする可能性がある。	メーカーと検討し、はしご設置位置の変更と安全柵の追加設置を実施しました。
	現在使用していない配管サポートが残っているため、足に引っ掛かることにより転倒の恐れがある。	直ちに撤去しました。
	液の抜き出しノズルの位置が目の高さより上のため、液が顔にかかる危険がある。	配管を延長して、ノズル位置を下げました。
	ガス供給配管の曲がり急でつぶれていた。	配管に曲がり継手を接続して急な曲がりを回避しました。
	コンデンサー冷却水出口温度計が足元に設置してあり、巡視時にぶつかりそうになった。	温度計には保護するカバーを取り付け、ぶつかり難い構造にします。
	原料充填場所にあるグレーチングの端に乗ったところ、反対側が跳ね上がりヒヤリとした。	グレーチングどうしをクリップにて連結して跳ね上がりを防止しました。

ヒヤリハットの要因	ヒヤリハット提案の内容	改善策*
設備	<p>蒸気送気用の弁を操作するためのデッキが弁の取り付け場所から離れているため、操作時に腕を伸ばした前かがみの不安定な姿勢となり危険である。</p> <p>配管変更工事に伴いバルブの取り付け位置が悪くなり、バルブ操作がやりにくい。</p> <p>溶剤が多いところに粉体をマンホールから投入する作業があり、爆発の恐れがある。密閉系に改善出来ないか。</p> <p>製品タンクのマンホールを開けての溶剤による洗浄は、窒素置換しながら行っているが静電気着火の恐れがある。密閉下で行える様にしたらどうか。</p> <p>原料仕込み作業を行っている時、足場に凸凹があるためつまずいて倒れそうになることがある。</p> <p>重量物を扱う現場である為フォークリフトでの作業が多く通路をひっきりなしに走行しています。そのため作業者との接触事故がいつかは起こりうる事が予想されます。フォークリフトの運搬作業は無くならないと思いますが少しでも自動化になれば危険性も減ると思います。</p> <p>設備の基本操作は同じであるが、バルブの型式や位置などが異まちなちとなっている。また、制御盤の卸やランプ位置なども建設時期で差異があり、操作を間違えるのではないかと不安である。統一することはできないでしょうか。</p> <p>フィルターを洗浄するために有機溶剤をバケツに取出している時に飛び散りかかりそうになった。</p> <p>台車で側溝上を通過していたとき、側溝の鉄板が落下した。台車の転倒事故の危険がある。</p> <p>インゴット(円柱状の棒)を運搬中、台車のハンドルを切ったところインゴットとハンドルの間に手を挟まれそうになった。</p> <p>グレーチング(側溝の蓋)を交換しようとしたら、予備品のサイズが少し違っていて、入らなかった。落下する恐れがある。</p> <p>側溝の蓋が変形していて躓きそうになった。</p>	<p>安定した姿勢で操作できる様にデッキを弁の取り付け場所まで延長します。</p> <p>デッキを設置してバルブ操作がやり易い様にします。</p> <p>取扱物質の危険情報を再確認し、その上で当該作業では、密閉系の設備等に改造し、爆発火災の危険性を排除する検討をします。</p> <p>指摘の通り設備の密閉化を図り、洗浄工程の安全化を進めます。</p> <p>作業床足場の現場確認を行い、より安全な様に凸凹を改善します。</p> <p>人とフォークリフトの動線の見直しを行います。あわせて運搬作業の自動化も検討します。</p> <p>指摘の箇所を再確認し、勘違いの起こらないように、表示を見直します。</p> <p>保護ゴーグル及び有機溶剤用手袋の着用はルールですが、有機溶剤のバケツへの取出しを禁止します。</p> <p>蓋の裏側に外れ止めを溶接しました。</p> <p>台車のベース長さを調整して、挟まれる危険性をなくしました。</p> <p>現場に落下防止の囲いを施します。グレーチングのサイズを修正し、現場に設置しました。</p> <p>蓋の鉄板を至急更新します。</p>
方法	<p>二人でのクレーン作業で、クレーンのスイッチを相手が放した時にスイッチが自分の体に当たりそうになった。</p>	<p>手を放すと、スイッチボックスが上に上がるようにしました。</p>

New

ヒヤリハットの要因	ヒヤリハット提案の内容	改善策*
方法	液体中の固形物を取り除く籠は、網目が詰まりやすいため掃除の必要がある。掃除の時には重量のある籠を手で引き上げるために、腰痛を起こす可能性がある。	人の力による方法からチェーンブロックを使用する方法に変更しました。
	薬液の保護用エプロンは、使用後に畳んでから箱に戻している。しかしエプロンに薬液が付いていると、畳む際に手に薬液が付きそうで危ないと感じた。	エプロン掛けを設置して、畳む作業を無くしました。
	ロール機器に取り付けてある刃の清掃は、ウエスをピンセットでつまみながらするので、刃に手が当たる危険がある。	刃に手が当たらないように、先端が直角に曲がったピンセットに変更しました。
	容器を昇降機に斜めに立てかけて荷揚げして内扉を開けたところ、容器が急に倒れて手を挟みそうになった。	容器を斜めに立てかけなくてよい大きさに変更しました。
	タンクローリーへの製品充填場で、安全帯をかけるワイヤーがタンクローリーの一方向に寄り過ぎているため、作業性が悪い。	安全帯をかけるワイヤーの位置を調整しました。また太いワイヤーに交換して安全性を高めました。
	暗い場所での作業で懐中電灯を使うと、片手しか使えず危険である。	ヘルメットに装着できるライトを購入して、両手が使えるようにします。
	圧力をかけて濾過する機器の圧力を抜いた時に、機器から内容物が噴き出して体にかかりそうになった。	機器内の圧力確認用の圧力計と「圧力ゼロを確認」の表示板を全ての該当機器に取り付けて、内容物の噴き出しを防止しました。
	フィルターの切り替えコックの流れ方向表示が汚れで見づらく、誤操作をしてしまう危険がある。	コックの溝に色をつけて、フィルターの流れ方向をわかり易くしました。
	瓶にサンプルを採るため、下にバケツで受けていたら、バケツ内のアルカリ液がはねて顔にかかった。	配管から瓶に直接にサンプリングする装置を設置しました。全面シールド型保護具の着用を徹底させました。
	反応槽仕込口の専用ルートより仕上げ剤を仕込み最中に、バランスを崩して転倒しそうになった。	仕込み位置が高かったので、適切な高さの専用作業台を設置しました。
	階段にて滑り止めテープの上から塗装が行われたため、滑り易くなってしまった。	滑り止めテープを貼り直した。
	2mのガラス棒を廃棄のため割ったところ、一気に全体が粉々に割れ、ガラス小片が飛散した。保護面・手袋により被災無し。	ガラス棒をシートで包んで破片が飛び散らないようにする。

ヒヤリハットの要因	ヒヤリハット提案の内容	改善策*
方法	容器に入った触媒液を漏斗を用いてタンクへ仕込む際に、容器が重いのでうまくタンクに入らず、こぼれた液が飛散して体にかかってしまった。	仕込用のポンプを設置して液の飛散をなくします。
	サンプリング用ガラス瓶を取り出し口に取り付けしたが、付着物があり嵌り具合が悪かったので強く締めたところ、ガラス瓶が割れてしまった。	取り付け口に付着する硬化物を事前に清掃する手順にマニュアル化します。
	操作バルブを取り違えて異なるバルブを操作したため、タンク液面を低下させてしまった。	間違い防止として、バルブに「名称」を赤色で表示しました。
	安全メガネをしてガラスの廃棄処分をしている時に、割れたガラスが顔のそばまで飛んできた。	保護具を安全メガネから顔面全体を覆うシールドに変更します。
	室内で溶剤による機器洗浄と濾過の作業が重なる時、引火・爆発の危険を感じる。換気を強化する必要がある。	工程の安全評価をやり直し、リスクの顕在化を行います。その上で、危険な工程は分離する様にします。換気は測定の上、強化検討します。
	加工する物の重量が重くなってきているので落としそうになった。	高重量物を扱う作業方法を見直します。あわせて、省力化設備の検討もしていきます。
	重い金型を取付ける作業時のミスによる怪我が心配である。	重量金型の移動や取付補助機器の見直しを進め、危険性を排除の検討をします。
	加圧容器を外す時等、圧を抜くのを忘れそうになる事がある。 ⇒内圧が分かる計器を取り付ける。	作業手順は作業指図書や標準動作書に定められています。手順に問題ないか再度確認し教育します。
	真空ポンプのオイル補給時、注入口のフタを取ったら中から熱いオイルが出て、火傷しそうになったことがある。	真空ポンプのオイル交換や補給の作業手順は、作業指図書や標準動作書に定められています。手順に問題がないか再度確認し教育します。
	容器の酸洗浄作業で直接洗浄液槽に容器を浸す時に薬傷する可能性がある。(決められた保護メガネと手袋に加えてエプロン着用も義務化しては)	容器の酸洗浄作業に関しては、マニュアルの内容に不備がないかどうか再確認し、周知徹底します。
	薬品を扱った時、飛沫が目に入ったこと。→視力が悪くて、普通のメガネをかけていると、保護メガネをかけない。メガネをしているから大丈夫と思うからだ。視力が悪くてメガネを使用している人も保護メガネが必要だと思う。メガネ使用者用の保護メガネがある。	指摘の通りメガネ使用者用保護メガネやゴーグルを着用させます。
	台車にプラスチックボックスを山積みにして移動し、通路で風や段差でプラスチックボックスがくずれたりしている。横を通りかかった人に当たる可能性がある。	置き場の整理整頓を行うと共に台車の移動通路の確保を徹底します。

ヒヤリハットの要因	ヒヤリハット提案の内容	改善策*
方法	プラスチックケースを積む際、うまくかさなっていなかったり、プラスチックケースから製品がはみだした状態でプラスチックケースを積んで台車を押している時、危険だと感じた。	荷積みの標準化を図り、また、移動時の安全のルール化を進めます。
	石英ガラス片をゴミ箱に無理やり押し込もうとして指を切りそうになった。	「耐切創用手袋を使用する」様に作業標準化し、マニュアルの教育を行います。
	スチームトラップ(凝縮蒸気の捕集機)交換時に熱水が噴出し危険であった。	配管の切り離し作業の手順を明文化します。作業前の危険予知(KY)活動を徹底致します。
管理	電話機に電話番号の表示が無いので、緊急連絡時に電話番号を伝えられずに折り返し電話での指示や連絡を受けられない可能性がある。	電話機に電話番号を明示して、話している者が自分の電話番号を伝えられるようにしました。
	実験室で、太陽光を受けたフラスコが集光レンズとなって近くにあったホースを焦がした。	実験室は、ブラインドで太陽光を遮る様にしました。
	工場内の道路の停止線や、作業範囲を示す線が消えているので、事故が起こりそうで気がかりである。	停止線や作業範囲を示す線の引き直しを実施しました。また、定期点検を実施することとしました。
	階段の近くにあるゴミ箱にごみを捨てる時に、ゴミ箱の上蓋が階段から落ちそうになった。	階段付近にあるゴミ箱の全てを、別の場所に移しました。
	空缶の置き場付近を車で移動中に、強風で飛ばされた空缶と当たりそうになった。	空缶が風で飛び出さないように、空缶置き場に囲いを設置しました。
	機器の巡視点検時に機器に昇って確認するため、転落の可能性がある。	点検窓を機器に昇らずに点検が出来る位置に設置し直しました。
	工場の巡視時に、本来運転していない排水ポンプの予備機が回っているのを発見した。	ポンプに「運転中」の札を表示して、運転状況が分かる様にしました。
	薬品の小分け作業のマニュアルには解り難い箇所があるので、間違った方法で作業をしてしまい薬傷する危険がある。	マニュアルを写真入りの解り易いものに改訂します。
	ポンベの圧力調整弁に最高使用圧力の印がないので、異常に気付かない可能性がある。	最高使用圧力の印を付けました。また使用している圧力計の最高使用圧力の一覧表を作成します。

ヒヤリハットの要因	ヒヤリハット提案の内容	改善策*
管理	スチームの凝縮水が道路に出ているので、凝縮水が冬場に凍結して滑る危険がある。	スチームの凝縮水が道路に出ないように配管経路を改良しました。
	槽の保温用スチームの凝縮水が室内に放出されていたため、床が濡れていた。	スチーム配管を建屋の外まで延長して凝縮水を屋外に出すことで、屋内の床が濡れないようにしました。
	原料ガスの許容量が作業場所に掲示されていないため、中毒が気になり。	原料ガスの許容量を作業場所に掲示しました。
	コンテナに液体製品を充填する為、蓋を開けに上がったところ、足が滑り転倒しそうになった。	コンテナの上部に滑り止めを貼りました。
	通行頻度の高い道路とのT字路の一部に「止まれ」の標識がない。重大事故に繋がる危険性がある。	「止まれ」の表示と標識を必要な道路に設置しました。
	屋外のローリー充填場所で、充填用のホースが散乱していて、つまづく危険がある。	専用のホース掛けを設置し、使用後は元へ戻すように習慣化を図りました。
	エアコンダクトから、塗装皮膜が多数垂れ下がっており、破片が人の目に入ったり、吸い込んだりする危険がある。	塗装皮膜が剥がれている箇所を取り除いたのち、再塗装をしました。
	酸性薬品をローリーへ払い出すため、ホースのカムロックを緩めたところ、キャップが音がして飛んだ。	気温が高く、ホース内圧が上がっていると予想される場合、カムロックは少しずつ緩めて、ホース内の圧力を抜くようにしました。動作書にも記載しました。
	篩からスラッジ液が跳ねて口の中に入りそうになった。	篩のカバー見直しと保護具の面形状を変更する。
	床に置いてあるものにつっかかり、倒れそうになった。	指定された場所を明確にし、その場所以外に物を置かないように管理を見直します。
	加工するロッドを運んでいるときに、床に張ってあるSUS板がめくれていると気づきそうになった。	直ちに見直します。危険箇所発見時は、日々のミーティングや申し送りで上司に連絡いただければ、即対策を実行させます。
	6炉、7炉階段を降りる時、手摺りを伝っていた手が建物の壁と手摺りが近いために手のはさまり、バランスを崩して転倒ケガをする危険がある。	建屋、壁、通路等に危険がないか確認し、安全に作業出来るように管理を見直します。
	外部業者の出入りが多く、常に場内に車が移動している。車での場内乗り入れを制限するか、昼休み等、特定時間内の通行を禁止してはどうか？	場内交通ルールに基づき車両の乗入れ制限を行っています。場所や時間帯で危険状態があるか見直します。

ヒヤリハットの要因	ヒヤリハット提案の内容	改善策*
管理	夜間パトロール中、計量のところが暗い。外灯があると良い。	作業環境測定で照度確認を行っていますが、指摘場所は再度チェック対応します。
	女性の夏用作業服上着のお腹の部分がプカプカしていて物に引っかかりやすいので危険に感じます。もう少し体にフィットした服の方が良いかと思えます。	指摘された内容も含め、全体的に一度見直し作業を行います。
	鉄板を敷いてある通路で鉄板と鉄板の間に段差がある所があるので、台車で通る時に台車が段差で引っかかって、転倒しそうになった。	直ちに見直します。危険箇所発見時は、日々のミーティングや申し送りで上司に報告の上、即対策を実行させます。
	危険物の種類が多い(原料)ので、各現場で使用する危険物一覧を作り、危険度を再度見直した方がよいと思った。	危険物は管理規準に則り、保管数量管理しています。日々、状況確認すると共に、作業での危険性について教育方法頻度等を見直します。
	雨漏りの場所があり、機側の制御盤などに雨水が浸入し、ショートなどの故障を生ずるのではないかと心配である。	指摘箇所は、場所を特定し、直ちに修理します。
	トレンチの蓋が外れてあり、落下しそうになった。	蓋を外した時は、落下防止処置を、必ず行ない、作業終了後は、速やかに復旧するルールを徹底いたします。
	オイルの入った容器を計量しようとした時、オイルが垂れていて、容器が滑り、配管にぶつかりそうになった。	作業場、機器、設備の4S(整理、整頓、清掃、清潔)を実施いたします。オイルをこぼしたら、直ちに拭くよう徹底いたします。
New New その他	フォークリフト運転中にハンドルを回したところ、トランシーバー用イヤホンの線がハンドルの間に挟まり、ヒヤリとした。	イヤホンは止めて、トランシーバー本体のみでの使用としました。
	屋内廊下を歩いている時に、廊下の曲がり角で先が見えず、前方から来た人とぶつかりそうになった。	ハーブドーム型ミラーを設置しました。
	工場内の交差点で、植込みの木で「止まれ」の標識が見にくい。	木の枝を剪定しました。
	フォークリフト運転時に強風で砂ぼこりが目に入り、視界不良状態になり衝突しそうになった。	強風時には保護メガネを着用させます。
	人員が少なく、異常の発見が遅れる恐れがあること、一人の持っている仕事量が多く注意不足になることもあるなどの不安を感じることもある。設備面、管理面について新たな考え方で対策を実施することが必要がある。	設備の自動化省力化を推し進め、作業者の負担を軽減して行きます。
	自動ドア、扉など反対側が見えない作りになっているため、自分が注意していても相手が不注意でぶつかりそうになる。	思い込みで行動するのではなく、周囲の安全を確認して行動するように教育します。また、場所によっては、センサーやパトライトの点滅の工夫もします。